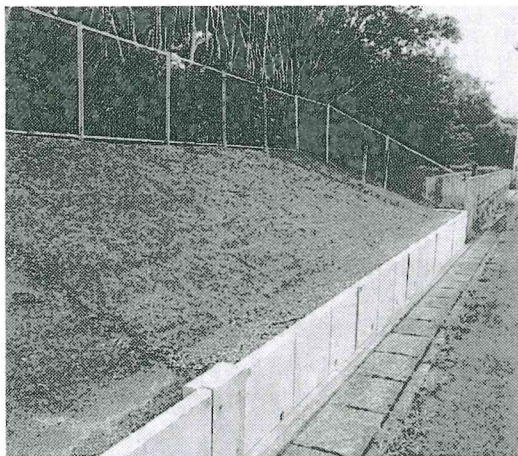


破碎瓦のすべりさ実証

軽くて土 国交省がお墨付き 圧を低減

国土交通省中部地方整備局は3月31日、「破碎瓦の活用技術資料」を公開した。国交省は平成27、28年度、港湾工事への利用を目的に、三州の破碎瓦(瓦シャモット)の材料特性の把握、活用方法の検討などを行ってきた。その集大成。資料は同局港湾空港部のホームページで閲覧できる。また同局は記者クラブなどに公表した。

同資料によれば、港湾工事には陸上工事と海洋工事が含まれる。研究は三州の破碎瓦を対象としているが、「その他の産地の瓦材料を用いた場合も適用できる」とされた。ただし粒度は「0-20mm」に限られている。



擁壁を用いた圧力試験の様子

愛知県陶器瓦工業組合(野口安廣理事長、25社)によれば、もともと顕著な成果は、破碎瓦について「他の一般的な材料よりも軽量で、内部摩擦角が大きいため土圧低減材料として有効」との評価を得たこと。繰り返し圧力がかかった場合でも、「粒子破碎はしない」との検証結果もある。

例えば、擁壁の内側に「裏込材」として使用すると、擁壁を内側から押し出す力を低減する効果が期待できる。自重やその他の荷重が水平方向にあまり分散せず、鉛直方向に伝わるため。

これは破碎瓦の「自立性」が、砂などの材料と比べて高いため。材料を一定の高さから落下させて円錐形に堆積したと

組工陶愛 29年度予算は3%減 「瓦の優位点を明確に」

愛知県陶器瓦工業組合(野口安廣理事長、25社)は3月31日に臨時総会を開催、平成29年度の事業計画と予算を決めた。予算は事務所分と、シャモット工場に分かれている。人件費やPR費などの事業費を含む事務所分の新年度予算は、約1億6700万円、前年度予算比3%減。瓦の出

野口理事長は「ここは瓦の方が優れている、ここは他の屋根材の方が優れている、など明確に伝える」と主旨を話している。

そのほか組合ホームページを変更し、プロユーザー向けとエンドユーザー向けの両建てとする計画。また木造住宅の耐震シミュレーション結果をテーマとした講演会を全国各地で開催することも検討するが、「詳細は市場広報委員会が決める」と野口理事長。地元自治体が公共建物に瓦を採用す

きの底面の角度(安息角)を調べると、標準砂や珪砂が31度だったのに対し、破碎瓦は41度だった。環境への影響について、農地基準や土壌汚染対策、産業廃棄物の海洋投棄などに關する基準に照らし、環境汚染に關する影響はない材料との評価も得ている。

同資料はこれらの結果から、港湾工事の裏込材、盛土材などに有利な条件で使用可能であることを示した。ただし供給可能性に限度があることから、「土留め背後の気中の裏込材」など具体的な使用部位を示して活用を促している。

下葺材初の釘穴止水性 JIS規格改正を公表

透湿ルーフィング協会(杉田賢造会長)とセーレ(株)は3月30日、港区の日本弁理士協同組合で「屋根用」透湿防水シートJIS規格改正に關する発表会を開催。マスコミ向けに改正の経緯や改正点、今後の普及活動などを発表した。

透湿下葺材は、外壁用のJISA6111「透湿防水シート」と共通する項目が多いことから、昨年8月22日に同JISが改正され「屋根用透湿防水シート」が加えられたこととなった。外壁用

物の海洋投棄などに關する基準に照らし、環境汚染に關する影響はない材料との評価も得ている。

同資料はこれらの結果から、港湾工事の裏込材、盛土材などに有利な条件で使用可能であることを示した。ただし供給可能性に限度があることから、「土留め背後の気中の裏込材」など具体的な使用部位を示して活用を促している。

東ロール状の棟換気新 施工簡単、価格優位性も

新東綸(本社・高浜市、石川達也社長)が販売するロールタイプの棟換気

飛鳥野瓦のリーフレット

丸栄陶業

丸栄陶業(本社・碧南市、樺山朋久社長)はこのほど、いぶしの本葺一体瓦「飛鳥野瓦」のリーフレットを刷新した。同製品は、平瓦と素丸瓦を一体化、工期短縮とコストダウンが魅力。リーフレットは施工例の写真を



条件で使用可能であることを示した。ただし供給可能性に限度があることから、「土留め背後の気中の裏込材」など具体的な使用部位を示して活用を促している。

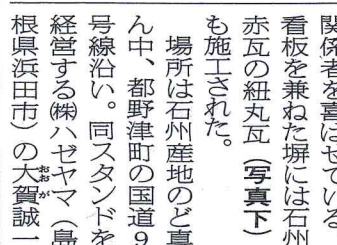
下葺材のJISで、釘穴止水性が盛り込まれたのは、透湿防水シートが初。耐久性では、屋根材施工まで1カ月以内の紫外線照射と10年間相当以上、30年間、50年間の耐久性を目安とした加熱処理

刷新、納まり図なども盛り込んだ。ホームページからもダウンロードできる。

ガソリンスタンド「江津かわら町店」

石州瓦を応援しようと、島根県江津市にこのほど「Dr. Driveセルフ江津かわら町店」という名のガソリンスタンドがオープンし、産地関係者を喜ばせている。看板を兼ねた塀には石州赤瓦の紐丸瓦(写真下)も施工された。

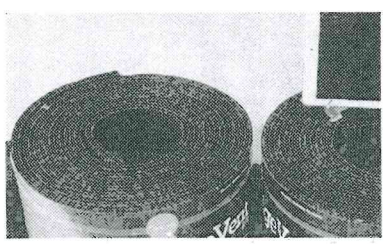
場所は石州産地のご真ん中、都野津町の国道9号線沿い。同スタンドを経営する(株)ハセヤマ(島根県浜田市)の大賀誠一



理後の水圧と引張強度残存率を規定した。

透湿ルーフィングの普及について、同協会では「シェアを3年で3%から11%に引き上げたい」とした。当日は、JIS化を反映させたパンフレットを配布、工務店や建築士向けのセミナー開催計画も発表した。

透湿ルーフィングは2000年頃各社が発売し、04年に同協会発足、12年からJIS化を目指していた。



を有しながら、高い価格

社長(60)は店名について、「地場産業の石州瓦の活性化に貢献したい」とスタッフで話し合ってきた。当初は「かわら町